

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176502845		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・清河寺2		
所在地	埼玉県さいたま市西区清河寺195-1		
自己評価作成日	令和2年8月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアシステムズ
所在地	東京都千代田区麹町1-5-4-712
訪問調査日	令和2年 9月26日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員会議や委員会を通じて認知症の理解と職員同士協力し合い、介護を行う事(チームケア)の大切さを学び、職員がやりがいを持って楽しく仕事出来る環境づくりをはじめ、ご利用者様が当ホームで過ごされるに当たり落ち着いた環境となるよう努めております。現在はコロナの影響により開催出来ていませんが、他事業所と交流の場を持ち、会議あるいは意見交換を行い、協力関係を築いている。時には介護用品の貸し借りなどご利用者様の支援へ結び付ける様にし、レクリエーションの際にはライバル関係など無くALSOK以外の施設よりレクリエーションへの招待をし、ボランティアを含め地域交流を行い協力関係を築いております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の入居前の生活や暮らしを重んじており、利用者一人ひとりの人生や価値観を尊重して支援に反映させていくように努めている。今までの生活情報を詳細に得るために利用者本人から情報収集を行っているが、それが同時に回想法にもなっている。月1回、職員間で認知症についての議題をあげ、ディスカッションを行うなどして支援に活かす取り組みをしている。また、コロナ禍以前には、別法人の近隣施設との行き来で、連携、交流を深めるように努めていたことから、終息後や制限の緩和があった際には再開が期待される。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の自治体や地域資源を有効に利用する、安全で安心出来る介護サービスを目標とし、管理者・フロア長を中心に医療連携を行いチームケアとして取り組んでいる。	管理者は、職員会議や研修、委員会の中でも事業所理念について話し合う機会を設け、日常のケアにおいても理念に沿ったケアができていないか確認するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への挨拶や周辺施設のイベントへ参加させて頂いたり、ボランティアの訪問など活動の場を広げている。	ボランティアの定期的な訪問は利用者の楽しみであったが、コロナ禍において中止としている。地域から七夕飾りの笹の葉を頂いたので、利用者と一緒に飾り付けを行ったり、ビアガーデンやおやつ作りなど楽しめる機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会の場以外に、実態調査訪問や施設見学などご家族様が訪問された際に認知症介護に於いて学び得たお話をする機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご利用様への支援にて通院対応の早さや利にかなった事、他ご家族様からの相談事例、話の食い違いがあった事例など自由な意見交換を行いサービス向上に活かしている。	定期的に行われている運営推進会議は中止としている。コロナ禍での地域との付き合い方について、再開にむけた課題として検討し、運営推進会議がいつでも開催出来るように準備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の高齢介護課へ生活保護の方の相談や情報共有を密に取り、入居や転居の相談などの協力関係を築いている。	毎月、担当課へ事業所や利用者の相談をしている。地域包括支援センターとは、オレンジカフェ開催について協力関係にあるが、現在は自粛の為メールやFAXで情報共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームがなぜ「身体拘束はしない」を理念に置いているか、身体拘束廃止委員会・研修を通し年6回の学びの場を設け、介護の品質の低下やご家族様へショックを与え兼ね無い事柄を学んでいる。	委員会で研修内容を決定し、定期的に勉強会を行っている。理解度テストの実施、研修記録の閲覧など、職員が振り返ることができるような仕組みもあり、身体拘束ゼロに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年6回開催し、参加出来なかった職員に対しても議事録を通し必ず周知する様にしております。他、虐待防止への理解度テストの開催や虐待防止テストを用いて理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	区役所の方と連絡や相談を取り合い、ご家族様が高齢にて介護支援が難しいと相談を受けた際には後見人制度をご紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用いてのご説明と疑問点には本部と連携を図り、理解して頂ける様に努めている。また契約時以外にも疑問点には相談出来る様窓口を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会と運営推進会議を2カ月に1回開催し、ご家族様からの要望や相談事は個人情報保護に留意した上で共有し、フロア会議や職員会議の場でも内容によっては職員皆で意見交換し、検討する場を設けている。	4月以降は家族会や面会も中止となり、電話でのやり取りとなっている。通常より要望が多数あり、職員会議、フロア会議で話し合いを行い事業所反映に繋げるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から管理者へ相談をし易い環境・雰囲気づくりを心がけている。職員からも常に個別に相談や提案を受け対応している。	個人面談やフロア会議、連絡ノートなどで職員からの意見を聞いている。また相談しやすい環境作りとして、管理者もケアに入り職員と同じ立場であることを意識付けるなど、職員が話しやすいように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から聞いた、他職員の良かった所を尊重し努力を評価する様心がけ、長所は褒めるようにしている。他、必要物品から人間関係の相談まで仕事のし易い環境に出来る様日々整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の長所・短所を見極め、適材適所の配置や協力し合う考え方を会議や研修の場を通じて指導している。また個々の短所などの課題も指導している。社内外の研修を取り上げ参加を促したり、日常でも業務から助言しトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の施設長・ケアマネージャー・生活相談員と毎月会議の機会を設けネットワーク作りやサービスの質の向上を模索している。 ※新型コロナウイルスの影響により今は自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様のご意向を聴き取り、アセスメントに基づいて穏やかに生活が送れるようコミュニケーションに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃より疑問点や相談事を受け付けており、情報の共有を図りながら一緒に支援について考え、相談しやすい環境づくりにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する時より、ご家族様やご利用者様が求める支援のニーズを見極め、必要な支援を提供出来る様に努めている。他、シニアセラピーや訪問リハビリマッサージなど他サービスの利用も必要であれば提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何気ない会話や一緒に食事とレクリエーションを楽しみ、無理の無い範囲で家事手伝いをお願いし第2の家として一緒に生活を共にしている事と役割があることでご自身の居場所がある事を実感して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人様とお話出来る機会を大切にし、職員からご家族様に日々の様子や悩みを一緒に話し合える機会を常に設けており、ご家族様と共に支援していく事を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用しておられた床屋・歯科・医者へ入居後も利用して頂いたり、自宅へ帰られる機会を大切に、手紙などのやり取りも支援している。	知人と手紙のやり取りを行う利用者や、家族と長年通っている理髪店に行ったり、親族の墓参りや外食をするなど、家族の協力のもとで馴染みの継続を途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の談話からご利用者様同士の会話の橋渡しをさせて頂いたり、レクリエーションを通しての交流や手伝いを通しての協力関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のまま退居されたご家族様へ次の受け入れ先の施設について相談に乗ったり、退居後ご家族様の方から状況を報告して下さる事があり、互いに感謝し合える関係づくりや支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のご意向が汲み取りにくい場合は、ケアカンファレンスにてアセスメントを行い、日々の生活や生活歴、ご家族様のご意向を取り入れることで利用者本位に検討している。	入居時の基本情報や家族の意見から、意向の確認を行っている。また、日々の会話や表情、様子を生活記録に記載して月1回のフロア会議にて話し合い、職員間で共有し、把握している。	フロア会議、モニタリング、介護計画に反映される生活記録の内容の記載については、さらに細かな情報を記録することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの新聞を入居後も読んで頂いたり、家具や好きな食べ物をご家族様に持ってきて頂いたり、家で行っていた支援を職員が引き継ぐ等の支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議・フロア会議を通し、状態の情報共有を密に行い残された力を尊重し、無理無く穏やかに生活を送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族会だけに限らず面会時や電話相談などを常に受け、ご家族様と共に必要とされる介護を考え支援に移せるよう計画作成に努めている。	定期的なモニタリング、サービス担当者会議を実施して介護計画の見直しをしている。また、家族会やサービス担当者会議には家族を招いて意見を介護計画に反映させるように取り組んでいる。	コロナ禍で家族の来所が難しい状況だが、参加出来るような工夫を検討されたい。また、家族アンケートではオンラインなどでの面会を希望する声もあるので、その対応も検討されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や日々の申し送りでケアの実践記録や気づき・工夫を個別毎に管理し、職員間で情報共有を行い、ご利用者自身にあった介護計画となるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護用品の相談から支援の仕方についての相談など必要な介護やニーズに答え、専門分野の方々とも協力関係を築きサービスの多機能化へ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	西区の地域資源の情報を公開し、ご家族様が身近にご利用出来るように面会時や家族会などで説明をさせて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より馴染みのあった医療機関へはご家族様協力のもと通院を行っており、訪問診療医や看護師・薬剤師と連携し必要な医療が受けられるよう援助している。	月2回、内科・歯科の訪問診療と毎週の訪問看護、歯科衛生士の来所により、医療との連携を取りつつ健康管理を行っている。また、薬剤師との連携も取っており、薬の説明や申し送りを個別ファイルし、確認しやすいようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ノートへ介護士が気になった症状や情報を記入し、看護師が来られた際に直接相談したり、看護師からも連絡を記載して頂く事により情報を交換・共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も面会を行いご本人様の状態を看護師から伺ったり、ご家族様と地域連携室への情報共有や退院へ向けての相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したご利用者様に必要な支援内容を考え、医師とご家族様へ相談し、相談後の内容は職員へも情報共有しチームとして支援出来る様、努めている。	重度化や終末期の方針は入居時に本人・家族に説明している。心身状態の低下がみられた場合は、医療との連携を取りつつ、その都度、家族に説明・面談を行い、今後の方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の状態や病状に合わせて対応できるようにフロア会議や職員会議にて処置の行い方をレクチャーしている。また緊急時には速やかに報告・連絡・相談を本部に行い連携を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防・避難訓練を実地し消防隊員のアドバイスの下で訓練を実施し経験を積み、非常災害計画書を作成し各地域へ連絡・連携できる様努めている。	年2回の防災訓練を実施し、災害時での対応を把握できるように努めている。今年度はコロナウイルスの影響があるものの、感染に十分注意した上で消防署の立会のもと、防災訓練を実施することができている。	自治会との連携は取れているが、防災訓練への参加はない。コロナ禍で難しいところではあるが、感染防止策を徹底した上で、参加してもらえる工夫を検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人一人の過去のライフワークを大切に、仕事の経験談や趣味をホームでも続けられる様、化粧や新聞を楽しんだり、声掛けにて昔話を傾聴し尊重するように支援している。	入居前の生活を重んじて、利用者一人ひとりの生活歴や性格などの詳細な情報を把握し、尊厳が保たれるような支援に取り組んでいる。また、各種マニュアル類の内容も定期的に見直し、支援に反映できるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替える洋服やおやつ、お茶など好みの物を選択して頂き、自己決定を大切に選べる能力の大切さを職員へ説明する様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人になれるスペースの確保や、居室にて休みたい、お茶を飲んで寛ぎたい際など自由に過ごせる環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には整容出来る時間を設けており、化粧品の使用を促したり、髭剃りなどの支援を行いおしゃれに過ごせる様支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションにておやつ作りを企画したり、ご利用者様の状態に合わせて食事形態を変えたりなど対応し、可能な工程をお手伝いという形でお話し、役割と食事・食後までの過程を大切にしている。	利用者が調理することはないが、食後の食器拭き、後片付けなどで、食事に関わる手伝いを行っている。また、3か月に1度のペースで、おやつ作りのレクリエーション活動を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量の管理や嚥下状態の確認と情報共有を行い、水分量のチェックや排泄量の確認を記録し、ご利用者様の体調や食事量に合わせた量を提供できる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士や歯科医師の居宅療養管理指導に基づき、口腔ケアの指導を受け適切なケアを行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握し、定期的トイレへご案内し失敗する確率を軽減したり、パットの適正な大きさを職員間で検討し、体操や運動などで下肢筋力の向上を図り寝たきりの予防や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄間隔や排泄量を把握し、フロア会議で話し合い、誘導時間、パットの大きさなどを検討している。極力、トイレでの排泄が出来るような支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	直ぐに下剤に頼らず、牛乳やヨーグルトを召し上がって頂いたり、場合によっては腹部マッサージなどの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴間隔を管理し、ご本人様の希望や体調を考慮しながら入浴を促し衛生を保てるよう支援している。	入浴実施表を活用し、3日に1回のペースで入浴ができるよう支援している。拒否がある場合は、職員変更、順番や日にちの変更などで対応している。季節の柚子湯、菖蒲湯の他、入浴剤も使用し、楽しんで入浴ができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	訪問診療医および医療連携看護師とご利用者様の体調や状態を相談し、助言を頂きながら安心して穏やかに休める様な環境づくりを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用の内容を理解し、薬が増えすぎないように医療連携看護師・薬剤師・訪問医師と相談連携の下、内服薬の減量に向けて支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔から読んでいた新聞の購読、化粧などを継続できるよう環境の支援、昔から遊んでいた将棋や囲碁などのレクリエーションの提供、好物だったものをご家族様協力の下、ご用意または提供出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周辺を散歩出来る様支援し、他施設へのレクリエーションの参加や公園での花見、ご家族の協力の下、外食や買い物を楽しみ充実した生活が送れるよう支援している。	施設周辺の散歩や近隣の施設へのイベント参加などの外出を行っていたが、今年度はコロナ禍にあり、気分転換として、施設駐車場や庭での外気浴の実施にとどまっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望がありました場合には、商品の選択やお金を支払う機会が持てるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に協力の下、了承を得られたご家族様と電話やお手紙で交流を図れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	蛍光灯の光量の注意から、日中でも薄暗い所は電気を点け明るい雰囲気大切に、テレビの音量や生活音に留意し穏やかな空気と、季節感を取り入れた掲示物や観葉植物を設置し環境づくりに努めている。	共有スペースのフロア掲示板には、レクリエーション活動の写真などが飾られている。また、落ち着いた音楽をかけたり、ピアノが弾ける利用者に演奏してもらったりなど、フロア内の雰囲気作りにも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ケアカンファレンスにてご利用者様の情報共有を行い、座席位置からご利用者様同士の関係を考慮し、活気のある充実した生活が送れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様により、ご入居者様の馴染みのある家具や食器を使う事の大切さを説明し、昔話をお聞きし環境づくりへ活かせる様、持ち込んでいただいています。	自宅で使用していた家具などを持ち込んで、安心して過ごせるようにしている。また、回想法の観点から、昔の写真を多めに持ってきてもらい、職員と昔の話がしやすい環境を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れるよう「できない」として見るのではなくご利用者様に残っている力を理解し、継続していけるようケアカンファレンスを行っている。また職員を教育している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	生活記録の記載内容について、職員により情報量のバラつきがある。	「生活記録は何故必要なのか？」を学ぶ。	身体拘束委員会や虐待防止委員会では、ご利用者様に必要な支援を考える事の大切さを学ぶ為、ケアプランや生活記録の話に結び付けやすい為、委員会や研修を通し生活記録の重要性を学ぶ。	2ヶ月
2	26	アンケートにてコロナ渦の中、オンラインで面会が出来るようにしてほしいとのご要望がご家族様よりあった。	ご家族様が施設に入らずとも面会が出来る様に工夫をする。	現状ではリモート専用の端末が無い為、ご家族様とLINE交換している職員を通し、オンラインにて面会を行っている。今後PCなどの端末を用いても面会が出来る様、検討致します。	4ヶ月
3	35	コロナ渦で難しい所はあるが、感染症対策防止策を徹底し、防火訓練に自治会も参加してもらえる工夫を検討する。	感染症防止策を行い、防火訓練に自治会を招ける様にする。	防火訓練時には三密を避け、ソーシャルディスタンスを保ちながら開催しています為、次回は自治会へ防火訓練へ参加して頂けないか連絡を行います。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

